

全日本マスターズレガッタ開催マニュアル 2023 年度版

I.開催趣旨

このレガッタはローイングを生涯スポーツとしてより多くの人を楽しんでもらうため、男女 27 歳以上のマスターズを対象として開催する。このため、勝ち負けはもちろん重要だが、すべての参加者がその動機は様々に、気楽に、気ままに、自分の体力に従って競技を楽しめるようにすることを目標とする。また、それに留まらず全国から参加する"漕友"と共に楽しいひと時を過ごす懇親の場を提供することも、同じく目標とする。

II.主催／主管

主催：公益社団法人 日本ローイング協会（以下 JARA）

主管：開催地のボート／ローイング協会

III.大会名称

全日本マスターズレガッタ

IV.大会方式

原則として World Rowing マスターズレガッタに準じる

V.開催時期

開催時期は、J A R A 主催の他のレースの開催時期や 6 月中旬から 7 月 20 日頃迄の梅雨や 8 月上旬の盛夏を避け、季節のよい時期に設定するものとする。

なお、レーススケジュールの関係から他各種レースとの併催については認めない。

VI.開催場所

開催場所の決定は、公募制とし全国から希望地を募る。

なお、全日本大会として多くの参加者が見込まれるため、立候補にあたっては以下の開催候補地選定基準を満たすことを前提とする。

また、候補地が複数存在する場合、本大会の開催場所として必要な要件を整理した開催地評価項目に従って比較評価を行い、開催地を選定するものとする。

開催地の公募は開催予定 2 年前のマスターズレガッタ終了後に開始し、1 0 月までに候補地募集を締め切り、遅くとも翌 2 月末までに JARA 普及委員会で選定し、J A R A 理事会で決定するものとする。

なお候補地募集期間を諸事情により設けられない等の理由により、開催候補地が存在しない場合、主管不在にて JARA 主催大会として実施することを可能とする。

<開催候補地選定基準>

- ①過去に国体や高校総体大会等大規模な大会の開催実績あること
- ②原則 1000m* 5 レーン以上が確保し得る公認コースであること
- ③多くの参加者が艇の整備や、オールを仮置き出来る場所を確保し、且つ、レースを観戦できる観覧席を確保できる

こと

- ④全国からレースへの参加を容易とするためレースに使用するエイトを除く、艇を借艇として準備できること。なお、エイトについては、マスターズクルーが利用出来る艇の数が全国的に限られている為、原則 JARA の責任でエイト艇を多数保有する戸田等から、トラック輸送する。
- ⑤借艇に供する艇については年式の有無は問わないが、レース毎に可能なかぎりイコールコンディションな艇を揃えるものとする。
- ⑥開催地については可能な限り、全国の各地域で均等化すること。

<開催候補地評価項目>

同規模の大会運営の経験、常設コースの有無、レース中の練習水域確保、レース開催時期の水面状態、公共交通機関からの交通の便、コースへのアクセス、艇置場エリアの確保、ボート運搬の難易度、発揚艇場所の数、全日本大会運営に伴う人員の確保可否、宿泊施設確保、周辺観光資源の有無

VII.開催規模

最終的な開催規模はエントリー決定後に確定するが、通常千人規模の参加者と 100 レースを超えるレース数が見込まれる。

<レガッタの運営>

- (1) JARA 主催の競技大会として原則、大会会長は JARA 会長が務めるものとし、その他の運営に関わる組織は以下に準じて各開催地で決定するものとする。

大会名誉会長	任意（開催地の推薦者、自治体首長など）
大会会長	JARA 会長
大会副会長	開催地ボート協会の長
大会委員長	JARA 理事長
競漕委員長	JARA 競技委員長または JARA 競技委員長が任命
副競漕委員長	開催地ローイング協会の長が任命
競漕委員	JARA 競技委員、開催地ローイング協会推薦者
審判長	開催ブロック審判部で決定
審判員	開催地審判員
実行委員会	開催地で決定（開催までの準備および競漕以外のイベント実施のため開催地における責任組織）
マスターズ事務局	JARA 内組織であり、大会開催準備に携わる

- (2) その他、運営に必要な役職、人員は実行委員会が適宜任命を行うものとする。

VIII.宿泊施設

実行委員会は、必要に応じて漕艇場から容易に移動可能な場所にすべての参加者が宿泊するに十分な宿泊施設の情報に参加者に提供する必要がある。

なお、自家用車を除き漕艇場から移動手段がない場合は、実行委員会は適切な移動手段を用意することが望ましい。また、これらの宿泊施設は実行委員会を通じて予約できることが、望ましい。

IX.パーティー（レセプション）

実行員会はレガッタ終了 1 日前のレース終了後、全国の漕友の親睦を目的とする全員参加のパーティーを開催する必要がある。なお、パーティー会場は漕艇場からできるだけ近い場所が望ましい。

X.競漕種目

World Rowing マスターズでの実施種目および国内における艇の普及状況やマスターズ選手の利用状況を考慮し以下のレースを開催することを努力するものとする。

なお、大会での開催種目については、その地の事情、参加希望者の要望も加え見直しを行うのも可とし、JARA と協議の上、決定する。

レース種目

男子	: エイト (8+) , 舵手付フォア (4+) 、クオドルプル (4X+ or 4X) 、ダブルスカル (2X)、シングルスカル(1X)、ナックルフォア(KF)
女子	: エイト, 舵手付フォア、クオドルプル、ダブルスカル、シングルスカル、ナックルフォア
男女混成	: エイト, クオドルプル、ダブルスカル、ナックルフォア

※男女混成の種目の漕手の半数以上は女子で構成する。また、舵手 (COX) は年齢、性別は問わない。

※クオドルプルについては舵手付、舵手なしのいずれでも可とする。

※ 1 つの種目に 2 エントリー以下だった場合は、他の種目と混ぜて実施することを可とする。

レース距離

男子、女子、男女混成のシェル艇種目 : 1000m

男子、女子、男女混成の KF 種目 : 500m

XI.年齢カテゴリー

年齢カテゴリーは World Rowing カテゴリーとし、年齢カテゴリー毎にレースを行う。

なお、一つのカテゴリーに 1 クルーのみのエントリーとなった場合は、前後のカテゴリーと一緒に混ぜてレースを行う。チームボートの場合、年齢は各漕手の大会開催年の 12 月末時点での満年齢から、漕手のクルー平均を算出し、小数点以下は切り捨てた年齢とする。

年齢カテゴリー

A : 27 歳から 35 歳、

B : 36 歳から 42 歳、

C : 43 歳から 49 歳、

D : 50 歳から 54 歳、

E : 55 歳から 59 歳、

F : 60 歳から 64 歳、

G : 65 歳から 69 歳、

H : 70 歳から 74 歳、

I : 75 歳から 79 歳、

J : 80 歳から 82 歳

K : 83 歳から 85 歳

L: 86 歳から 88 歳

M: 89 歳以上

計算例 :

age[1]=2008-1948=60
age[2]=2008-1948=60
age[3]=2008-1948=60
age[4]=2008-1949=59
合計年齢 = 239
平均年齢 = 239/4 = 59 (余りは切り捨て)

XII. 競漕方法

1 競漕規則は JARA の競漕規則に準ずる。

ただし、大会参加者および開催地の事情を考慮し例外規定を設ける事を認める。

例外規定：

- ① マスターズでは男女混成種目を設定する。
- ② ナックルフォアのレースを 500 メートルで実施する。
- ③ 艇計量を実施しない。(11 条)
- ④ 出漕申し込みに加盟協会長の承認を求めない。(13 条)
- ⑤ 出漕申し込みに加盟協会の記入を求めない。(14 条)
- ⑥ 舵手の計量を実施せず、性別も問わない。(25 条)
- ⑦ 男女混成クルーについてはクルーのユニフォームは統一を問わない。(30 条)
- ⑧ オールのブレードカラーの統一は問わない。(31 条)

2 優勝者は World Rowing マスターズ方式に準じ決定する

World Rowing 方式にならない、トーナメント方式によるチャンピオンシップ形式ではなく、全てのレース毎に優勝者を決定する方式とし、1 位のみメダルを授与する方式とする。

なお、出漕クルーが少数の場合、複数カテゴリーを組み合わせて 1 レースとするが、この場合はカテゴリー毎に優勝者を決定する。このため、競漕委員会は加齢によるハンディーを十分に考慮し、極力同様な平均年齢のクルーどうしの対戦となるよう公平に出漕組み合わせとレーンの割り当てを行う。

XIII. 日程

① 小艇種目、② 大艇種目、③ 男女混成種目という様にレース日程を組み、1 人で複数の種目に出漕できる様に配慮するものとし、標準的なスケジュールは下記のとおりとする。

金曜日 午前：艇準備

金曜日 午後：練習配艇

土曜日 午前：小艇種目 M1X、M2X、W1X、W2X、

土曜日 午後：大艇種目 M8+、W8+、M4+、W4+、M4X+、W4X+

土曜日 夕刻：全員参加でのパーティー（有料）

日曜日：男女混成種目 8+、4X+、2X および男子 KF、女子 K F、混成 KF

※監督・主将会議を実施しない。事前にレガットルール、コース航行規則を周知させるため JARA のホームページ等で事前告知を行う。

※主催地によっては、練習配艇日を複数日設けることも可能とする。JARA のホームページ等で事前告知を行う。

XIV.出漕資格

- (1) 参加選手の国籍は問わないが、プログラム、案内等について特別な対応は行わないことを可とする。
- (2) 漕手、COX は開催年度に日本ローイング協会に選手登録を行ったもの、もしくはマスターズ選手専用の選手登録を行ったもの。監督・コーチは除く。
- (3) 年齢については、当該年度の 12 月 31 日に 27 歳以上のものとする。
- (4) ローイング協会役員も選手としての参加を認める。
- (5) 複数団体メンバーからなる混成クルーでの出漕、一人複数種目への参加、複数団体からの参加申し込みも可とする。ただし、年齢カテゴリーが異なる、同一種目への参加は不可とする。
- (6) 健康管理は自己責任とし、参加申込時に同意書を要求する。

(当日は、参加者全員に健康保険証の携行を求める)

※選手交代について 1 時間前までに、競漕委員会に申し出ることにより可能とするが、申込時の年齢カテゴリーの変更は行わない。従って、選手交代により年齢カテゴリーが若いカテゴリーになるような選手交代は認めない。なお、申込時の年齢カテゴリーより年上になる選手への交代を認めるが、カテゴリーの変更は行わない。

※複数種目への参加を歓迎するが、それにとまなうスケジュールの変更は行わない。

※COX は年齢、性別は不問とするが選手登録は必要。体重の制限は設けない。

XV.艇の手配

(1) 使用艇

エイトおよびナックルを除き、自艇参加を可とするが、大会趣旨に沿い、可能な限り多くの人々が参加し易いように実行委員会は、全員が借艇 (or 配艇) による参加を可能とするように艇を用意するように努める。なお、エイト、ナックルに関してはオールも含めて準備する。

ナックルは現地実行委員会で準備するものとするが、エイトについては JARA がオールを含めて用意し、開催地までの輸送についても責任を持つ。COX BOX, ストロークコーチ等は借艇には含めない。

ナックルについては、最新 FRP 艇と旧型木造艇で 50kg 近い重量差があるので、全て配艇とし、自艇参加は認めない。

(2) 艇の確保について

実行委員会は可能な限りイコールコンディションの艇を確保するように努力する。なお、エイト艇については、すでに記載のとおり JARA が艇の手配を行うためコンディションについてもその責任を負う。

(3) 配艇の方法

配艇の場合、リギング調整時間を含めて、レーススタート前に十分な時間を確保できるように配艇スケジュールを組む。また、参加者が要求する場合、レース開始前日、少なくとも 1 時間の練習時間を提供する。

なお、参加者が配艇用に供出した自艇がある場合は、事前に実行委員会に申請することにより、当該クルー

のレースで自艇を使用することが出来るように実行委員会に要求することができる。

(4) 配艇のリギング

各艇のリギングについては別途示す、標準リギング表に基づいて適正な状態に実行委員会側が事前にセットとする。

全艇配艇のエイト・ナックルに関しては、リギング変更は原則ストレッチャーの前後位置の変更および取り外し可能なワッシャーによるワークハイトの調整のみ可とする。

オールの浮き沈みの問題については艇上で、ビニールテープ等で対応する。それ以外の艇種に関しては配艇時のリギング調整を認める。

(5) バウナンバープレート

バウナンバープレートは JARA で準備するものを使用艇に装着する。

XVI.大会参加料

大会参加料として、①出漕料、②借艇料、③パーティー代を徴収する。

①出漕料は、競漕種目に関わらず、一人当たり 1 種目出漕料を 6000 円とし、出漕者(漕手および COX)から徴収する。(ただし補欠からは徴収しない) 一人が複数種目にエントリーする場合は、2 種目以降については一律 3000 円とする。なお、ナックルフォアの出漕料はその距離 (500m) を考慮し、半額の 3000 円とする。

②借艇料は出漕者(漕手および COX)1 シート当たり 1 種目毎に 3,000 円を徴収する。一人が複数種目にエントリーする場合も、同額を徴収する。また、ナックルフォアについては 1000 円とする。なお、練習日については別途 1 シートあたり 1,000 円を徴収する。ナックルフォアについては別途定める。

③パーティー代は大会参加者全員が出席するものとし、監督、補欠、マネージャー等も含めて参加者全員から徴収する。実施方法、参加費用については実行委員会が決定し、参加要項に記載し、出漕料とともに徴収する。

XVII. 賞

各レースの優勝者にのみメダルを授与し、賞状は原則授与しない。

メダルは全日本選手権等の JARA 主催のチャンピオンシップ大会で授与する金メダルではなく、開催地実行委員会が手配する。メダルのデザインは任意とするが、開催年月および開催地名、種目名を刻印する必要があり、事前に JARA の承認を得る必要がある。

傘寿メダル：大会に出漕する 80 歳以上の選手の方々に傘寿メダルを授与する。(過去受領した選手を除く) メダルの手配は JARA が行い、開催地実行委員会とともに授与する機会を大会期間中に設ける。

XVIII.参加申し込み

参加申し込みは、他の全日本選手権大会と同様に JARA 宛に大会開催時に指定した方式で行う。

なお、エントリーの関わる取りまとめの事務作業は JARA 事務局で行い、その結果を実行委員会に報告する。

XIX.プログラム

実行委員会はクルーメンバーリスト、レーススケジュール、コースレイアウト、回漕レーン、練習規則、航行規則を適切

に記載したプログラムを作成する。

XX.運営費

大会運営費の管理は主催者：日本ローイング協会が行い、主管：ボート協会と連携し、予算の執行を行う。（主管不在の場合は、日本ローイング協会にて予算執行を行う。）なお、過不足金についての取扱いは明確にしたうえで、日本ローイング協会と主管協会双方で確認書を取り交わし、大会終了後速やかに精算を行う。

XXI.その他

実行委員会は上記以外の運営、イベント、参加賞の有無、スポンサーおよび物品や記念品販売等は無償、有償を問わずマスターズ事務局と協議・合意の上、決定できる。

以上